

フレグランス消臭剤『エフグラス』シリーズ 新発売

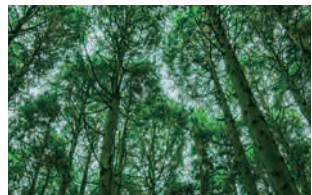
トイレに 更衣室に エレベーターに...

天然精油で空間の消臭と香りの演出を

2023年 10月 新発売

ウッディ

森の中にあるようなヒノキの香り
フィトンチッドの消臭効果も



メントール

清涼感と涼しさを基調とした
清潔感のある爽やかな香り



リラックス

ラベンダーをベースに
ゆったりリラックスできる香り



ビタミン

柑橘系をイメージした
元気になる香り



日本水循環文化研究協会

特定非営利活動法人日本水循環文化研究協会とは...
本コラムでも取り上げられている尿関に関する文化
や国内外の水の循環をめぐる文化の発掘、普及、
継承を目指して活動しています。2022年日本下水
文化研究会から改組しました。



第7回 リレーコラム

今回のコラムも前回に引き続き、総合トイレ学研究家の森田英樹さんにお話をお伺いしました。

“しゃがみたい” はなし

前回は『“おまる”のはなし』と題してヨーロッパの“おまる”に出会った明治時代の日本人の戸惑いについてお話させていただきました。今回は、水洗トイレと出会った時の戸惑いについてお話をいたしましょう。

現在では水洗トイレといえば、洋式の腰掛式の便器が中心で、和式のしゃがみ式の便器は減少の一途です。しかし、明治時代となりますと事情は異なります。明治も中期になりますと、洋式の水洗便器が輸入されるようになり、官庁や大企業、富豪の間で需要がでてきました。しかし、長年しゃがんで用を足していた日本人にとっては、腰掛式は何としても受け入れ難いものでした。水洗式の普及は、欧米の腰掛式便器をいかにして日本のしゃがみ式便器に変えて行くかの挑戦でもありました。

では、どのような経緯を辿ったのでしょうか。当初は、何とイギリスから輸入した腰掛式の便器を、そのまま床に埋め込み便器の上縁を床面と同じ高さにして、しゃがみ式として使用しました。しかし、この状態では、いわゆる金隠しがなく、前後も判別できず落ち着きが悪いものでした。そのため、今度はインド便器といわれる大便器を輸入し、大理石製の金隠しを後付けして床に埋め込み、しゃがみ式水洗便器として使用しました。何とも強引な和式化に思えます。その後、試行錯誤の末1904(明治37)年頃になると不完全ながらも国産のしゃがみ式便器の販売や開発が行われるようになったようです。

さて、北九州市にあるTOTOミュージアムには、国会議事堂に設置されていた洋式の水洗便器が保存されています。その便器の上縁の陶器部を良く見ると、不自

然な細かい線状の傷が無数についています。この傷は、恐らく靴のまま便器の上へしゃがんだために付いたのだらうと言われています。果たして洋式便器の使い方が解らなかったのか、あるいは頑として腰掛掛て使いたく無かった結果であるのかはわかりません。

いずれにせよ靴のまま洋式便器の上へしゃがんでいる奇妙な姿を想像するに、時代の変化に翻弄された日本人の悲哀を感じずにはいられません。



インド便器 出典は『近世便所考』建築知識社

トイレ歳時記 1月

「一年の計は元旦にあり」。
お正月には家の中の神様が宿る場所に鏡餅を供えます。日本鏡餅協会によると、トイレにも「廁神」と呼ばれるトイレの神様がいて、昔から女性のお産を守る神様として大切にされ、トイレにも小さな鏡餅を供えると良いということです。

編集後記

今回マンホールサミットでは紙面では紹介しきれない展示や体験イベントも盛りだくさんで、その盛況ぶりに本当に驚きました。マンホール蓋のデザインの秀逸さや観光資源としてのポテンシャル、地域と地域をつなぐ役割、また循環型社会へもつながっていたり、マンホールを通してまだまだいろいろな可能性がありそうで、これから継続して取材をしていきたいと思いました。(セルベッチオ中嶋)

あなたの町のアメニティネットワーク

コンナ イイトレ
アメニティ本部フリーダイヤル ☎0120-57-1110

トイレを楽しくする新聞

http://www.amenity-network.net/
Amenity Network

発行所 株式会社アメニティ
〒221-0863 横浜市神奈川区羽沢町885
TEL:045-371-7676(代) FAX:045-371-7717
Copyright © 2003 AMENITY INC. All rights reserved.

2024 新年号
Vol.106

特集 マンホールサミット in 岡崎 体験レポート

後編

2023年10月21、22日に愛知県岡崎市で開催された「第11回 マンホールサミットin岡崎」に参加してきました。「マンホールサミット」とはいったいどんなイベントなのでしょうか？前号の前編に続いて後編のスタートです。それでは見てみましょう！



岡崎市は2023年、下水道事業100周年を迎えました。それを記念して中部地方では初開催となるマンホールサミットが岡崎の地で開催されました。徳川家康公生誕の地としても知られ、2023年のNHK大河ドラマ「どうする家康」でも盛り上がりました。ということで今回のサミットのテーマは「踏み込み!戦国の舞台へ!」。戦国武将ゆかりのマンホール蓋が全国から集結しました。



マンホールサミットとは
デザインマンホール蓋の魅力を発信するとともに、下水道の機能や役割への理解を促進することを目的としている。2015年から全国各地で開催され、今回11回目を迎える。



合戦や戦国武将にゆかりのある地のマンホール蓋が全国から集められました。他にも愛知県内の自治体のマンホール蓋や岡崎市ゆかりのまちのマンホール蓋も展示され、過去最高規模の100を超える自治体からのマンホール蓋が一堂に会しました。

が配布されるということで、配布開始時刻に合わせて到着しましたが既に500m以上はあろうかという長蛇の列。皆さんのお目当ては、この日先行配布される新デザインのマンホールカードでした。約40分かかり記念品をゲット!もちろんデザイン元となったマンホールで記念撮影もしました。



岡崎市下水道事業100周年を記念して作られたデザインマンホール蓋とマンホールカード。岡崎市出身で「kawaii」文化の原型を作った内藤ルネ氏の「ルネガール」、家康公が生を受けた「岡崎城」、「三河花火」、「岡崎公園の桜」がデザインされています。

記念品が配布された桜城橋のベンチに人だかりが…。皆さん和気あいあいとお話されているのでお仲間どうしかと思いきや、実は全国各地から集まった初対面のマンホールの方々。



マンホールカードを収納したご自慢のファイルを手し、カードを交換する目的で集まっていたのです。



左:香織さん(東京都在住) 観光案内所で働いていて、観光客の方にマンホールカードについて聞かれることがあり興味を持ちました。主にキャラクターがデザインされたマンホールカードを集めています。

右:悦子さん(岐阜県在住) たまたま近所でもらったらしいので面白かったので、旅先などで集めています。現地に足を運ばないともうえないところや、カードをきっかけに会話が広がったりするところが魅力です。

籠田公園ではマンホールを楽しめるさまざまなブースが出展されていました。



マンホール蓋の凹凸を利用して拓本を取りオリジナルトートバッグを作ることができるコーナー。



下水道の汚泥からできた肥料などの下水道資源から食材を生産する取り組みが進められています。これぞ循環型社会。そうしてできた食材を利用してマンホールの蓋を模した鉄板で焼いたトルティーヤが販売されていました。



ポケモンがデザインされた「ポケふた」の写真撮影スポット。「岡崎手作り甲冑隊」の隊員の方も会場を練り歩き、イベントを盛り上げていました。



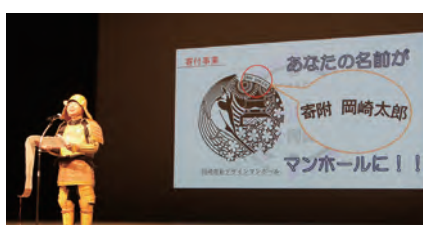
公園内には戦国武将ゆかりのまのマンホール蓋が展示され、皆さん思い思いに写真撮影をされていました。こんなにたくさんの全国各地のマンホール蓋を一度に見ることができるのもマンホールサミットならではの。

岡崎市民会館では、マンホール蓋を開ける「マンホールガッチャ」のポーズを会場全員で行い、リレートークイベントがスタート。この日は6人のレジェンド級マンホールが登壇し、マンホール蓋に対するそれぞれの熱い思いを語りました。登壇者の方のマンホール愛と軽妙な語り口とに、マンホール初心者の私も次第に引き込まれていきました。特に印象に残っているのは「ひで@ポケふたメンテナンス部」さんです。ひでさんはマンホールカードの発案者

でもあり、全国に310枚あるポケふたをメンテナンスして回られています。遠くから足を運んだマンホールがいつもきれいなポケふたを撮影できるように、そしてポケふたが末永く愛されるように日々ポケふたを磨かれている姿はトイレをメンテナンスする私たちと重なるところがあり興味深く拝聴しました。



ひで@ポケふたメンテナンス部さんの傍らにはメンテナンスボックスが



甲冑姿の中根康浩岡崎市長も登場。一口3万円の寄付でマンホール蓋に自分の名前を刻むことができるという驚きの企画が発表されました。

まとめ

当日は好天にも恵まれ、全国から13,000の方が集まりました。マンホール界がこんなに熱いことになっているなんて、その盛況ぶりには大変驚きました。そして、トイレと同じようにデザインマンホールも世界に誇れる日本の文化だということを感じました。次回のマンホールサミットは2024年に富山市で開催されるとのこと。ぜひ足を運んでみてはいかがでしょうか。



THE TOKYO TOILETプロジェクト 維持管理で貢献するトイレ診断士

Toilet Topics

映画『PERFECT DAYS』の舞台にもなっている渋谷区の公衆トイレ『THE TOKYO TOILET』プロジェクト。トイレ診断士は『メンテナンスアドバイザー』として定期的なトイレ診断で安全で快適なTHE TOKYO TOILETの維持管理に貢献しています。その活動を多くの人に知ってもらおう機会がありましたのでご報告します。

全国トイレシンポジウムでトイレ診断士が登壇

2023年11月16日に東京ビックサイトおよびオンラインで開催された第39回トイレシンポジウムで、パネルディスカッション「THE TOKYO TOILETから何を学んだのか」にトイレ診断士が登壇しました。パネルディスカッションでは、THE TOKYO TOILETを設計した坂倉竹之助氏、小林純子氏も登壇し、今後の公衆トイレに求められる課題やクリエイティブ

ティの力について議論を行いました。トイレを設計をする側とできあがった後に維持管理をする側が一堂に会して議論を交わす機会というのは、これまで稀だったように思います。今後、より良いトイレを作っていくためにも、メンテナンス側からのフィードバックや両者の情報共有が必要だという共通認識をもつことができた議論だったのではないのでしょうか。



書籍・雑誌も出版

TOTO出版より書籍『The Tokyo Toilet』発売

充足の経緯から全施設の豊富な写真やクリエイターインタビュー、詳細図面までTHE TOKYO TOILETプロジェクトの全容を完全公開した、プロジェクトの総括とも言える書籍です。もちろん、メンテナンスもこのプロジェクトの重要な一部分としてトイレ診断士についても2ページに渡り掲載されています。



タイトル: The Tokyo Toilet
著者: [文] 岡野民 [写真] 永禮賢
発行年月: 2023年10月
体裁: B5判変型(257×190mm)、並製、280頁、和英併記
I S B N : 978-4-88706-404-1
デザイン: 島田 隆
価格: 3,300円(本体3,000円+税10%)
発行元: TOTO出版 [TOTO株式会社]

持続可能なメンテナンスカルチャーを考える雑誌『Maintainable』

2023年3月に発売された雑誌『Maintainable』でも、利用頻度の高い公共トイレであるTHE TOKYO TOILETをいかに維持管理していくのかという観点でトイレ診断が紹介されています。管理者である渋谷区、1日3回という高頻度で清掃業務を担う東京サニテーション、そして診断を行うアメニティ、3者が連携して観光資源としてのトイレを長期間維持していく重要性が示されています。



タイトル: 持続可能なメンテナンスカルチャーを考える『Maintainable』 [メンテナブル]
著者: Maintainable編集部
発売日: 2023年3月21日(火)
体裁: 108ページ、A4、中綴じ、フルカラー
I S B N : ISBN978-4-991302-50-3
価格: 770円(税込)
発行元: フェバリット株式会社